



笹中だより

伊丹市立 笹原中学校 学校通信
第3号 令和3年 9月 3日
編集責任者 校長 菰口太志

「全国学力・学習状況調査」等の結果 ～結果にもとづく「改善」が重要!～

3年生を対象に、5月27日（木）に実施されました「全国学力・学習状況調査」のうち、「学力調査」（国語・数学の2教科）の結果概要をお知らせします。

3年生には、各学級で個票を配布しています。設問ごとの正解・不正解、問題の内容等が詳しく記載されていますので、点数のみに振り回されることなく、どこでどうつまづいたかなどをしっかりと振り返り、見直してください。

また、本校の教員で、今後結果を詳しく分析し、各教科での課題とその改善策について話し合います。これからの授業改善に活かし、生徒の学力向上に努めます。

各ご家庭でも、家庭学習について子どもたちへの働きかけをお願いいたします。学校と家庭の共通理解のもと、協力して笹原中学校の生徒の学力向上に取り組みましょう。

全国学力調査（国語・数学）とはどんな調査でしょうか？

- ①身につけておかなければ、後の学年等の学習内容に影響をおよぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立てて実践し、評価・改善する力などに関わる内容

上記、①・②を一体的に問う調査となっています。平成30年度までは、A問題とB問題の2種類の調査があり、①がA問題、②がB問題にあたります。

※ただし、この調査で測れる学力は特定の一部であって、学力の全てを表すものではありません。

今年度の全国学力調査（国語・数学）の平均正答率

	国語	数学	合計
笹原中学校	64	58	122
兵庫県	64	58	122
全国	64.6	57.2	121.8



◎国語、数学ともに、ほぼ、全国平均ならびに兵庫県平均と同じ程度です。昨年度、コロナ禍でも、7校時学習などで授業時数を確保したこと、タブレット等のICT機器を効果的に活用したこと、また、「落ち着いた授業態度」「規律ある生活態度」「笹トレ」「サクセスシート（授業の振り返りシート）」などの取組の成果が出ていると思います。

ただし、どちらの教科も「記述式」問題の正答率は低いので、今後の授業はもちろんのこと、笹中生全体としての課題であると言えます。

今年度の全国学力調査（国語・数学）の結果分析概要

【国語】小林先生分析・アドバイス



「文脈に即して漢字を正しく読む」ことについて正答率が9割を超えており、日頃の漢字学習の成果が表れていると言えます。また、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」に関する設問での正答率が相対的に高かったです。授業でICT機器を活用する場面が増え、自分の考えや意見を交流する機会が増えたことが結果に表れてきていると言えます。

一方で、正答率の低かった設問は、「書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く」（書く能力）24.6%、「文脈の中における語句の意味を理解する」（読む能力）38.5%、「相手や場に応じて敬語を適切に使う」（言語）36.2%でした。

また、無答率が高かった設問は「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つ」（読む能力）27.7%で、正答率が16.9%でした。

学習状況調査の「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか」という質問に対して、「当てはまる」と回答した生徒が3割未満と少なく、自己表現に苦手意識を感じていることが影響しているかもしれません。

読書や話し合いの機会を増やし、ものの見方や考え方を広げ、自分の考えを形成していくことが必要です。相手の考えと自分の考えの同じところや違うところを受け止め、資料や文章、話の組立てなどを工夫し、自分の考えをしっかりと伝えられるように意識してみましょう。

【数学】椿先生分析・アドバイス

与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る問題は、正答率が高いです。しかし、記述問題では、正答率が40%を下回っており、無解答率が20%程度でした。考察したことを、一般化して数学的に説明したり、表現する力が弱いと言えます。

正答率が低かった設問は、「日照時間による気温差の傾向を主張できる理由をグラフの特徴を基に説明する」（数学的な見方や考え方）6.9%、「2つの分布の傾向を比べるために、相対度数を用いることの前提となっている考えを選ぶ」（知識・理解）28.5%などでした。また、無解答率の高い設問は、「 $\angle ARG$ や $\angle ASG$ の大きさについて、いつでも言えることを書く」26.2%、「四角形で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であるか説明する」などで、数学的な見方や考え方に関する観点で無解答率が高い傾向にあります。

普段から、物事の事象に対して結果だけを見るのではなく、なぜそうなったのか、根拠を基に考察することが大切です。授業や家庭学習において、説明する時や毎時間の振り返りをする時、根拠を明らかにして論理的な文章を書くことを心がけましょう。

